

海陸運送業・長手HDの

現状と成長戦略



内航海運や陸上輸送などを手掛ける長手ホールディングス（神戸市中央区、代表取締役CEO・長手裕輔氏）は、モーダルシフト需要の拡大を追い風に、船舶増強や物流DX、人材改革を進める。日産自動車車の生産移管という物流構造の転換が迫る中、同社の現状と成長戦略について、榎木一秀代表取締役社長COOに聞いた。（斎藤 雄輝）

――26年3月期を振り返る 日産自動車の販売低迷による新車輸送減少でプリンス「売上高は約1339億円、海運を中心とする海運事業は減益となったが、利用運送事業を展開するシー・リ

榎木一秀社長に聞く

ンクが利益を伸ばし、グループ全体（チャーター船）となるが、将来を見据えた先行投資として人員を含めて準備を進めている。さらに30年た成果が表れ始めている。2年前にグループ入りした実運送のシー・ラインも順調に業績を伸ばしている。――設備投資計画について。

「日産自動車の追浜工場

が、将来を見据えた先行投資として人員を含めて準備を進めている。さらに30年た成果が表れ始めている。2年前にグループ入りした実運送のシー・ラインも順調に業績を伸ばしている。――設備投資計画について。

モーダルシフト進展追い風に

船舶輸送需要取り込む、28年度造船を計画

（神奈川県横須賀市）は27年度末に車両生産を終了し、今後は日産自動車九州（福岡県苅田町）へ車両生産を移管する。移管に伴い、関東

「モーダルシフトの進展は当社グループにとって大きな追い風になる。九州」完成車の輸送台数は増加するとみている

「この需要拡大を見据え、

現在3隻体制の自社内航船を、2028年度には4隻体制へ拡充する計画だ。備

に成長している。神戸営業所も昨年開設し、陸上輸送のラストワンマイル需要へ対応している。プリンス海運、シー・リンク（沖縄）、

「物流業界は人手不足や環境対応、物流の効率化など大きな転換期を迎えている。当社グループは海運、利用運送、実運送の連携をさらに強化し、物流DXも積極的に取り入れながら、お客さまにとって利便性の高い物流サービスを提供していく」

「昨年から人事制度改革を進めている。プリンス海運では船員の勤務体系を『3カ月勤務・1カ月休暇』から『2カ月勤務・1カ月休暇』へ変更した。船員からの評価は非常に高く、他社の船員から『プリンス海運で働きたい』という声も聞いている」

「人事評価制度も年齢ではなく成果を重視する制度へ改めた。さらにグループ5社で評価を共有し、人事評価会議を開くことで公平

「一方で、人への投資も欠かせない。船舶や物流拠点への設備投資と人材育成の両輪で企業価値を高めていく。既存事業を着実に磨きながら、新たな事業や市場にも積極的に挑戦し、持続的な成長を実現していきたい」

「2024年にグループ5社で評価を共有し、人事評価会議を開くことで公平

